



令和2年度 SSTA福島支部 授業実践省察講座 実施報告

【実施日時・場所】令和2年7月23日（木）@福島大学附属小学校

【参加人数】27名（幼稚園2名，小学校23名，中学校1名，指導主事1名）

【研修のねらい】

- 日頃の授業実践を会員同士で振り返ることを通して、これからの授業改善に生かすことができるようにする。
- 授業実践を振り返ることで得たことをまとめ、ソニー教育論文への執筆につなげる。



様々な校種の先生方に参加していただき、互いの考え方や実情を知る機会になりました。

【研修内容】

① 「省察」についての共通理解・研修の方向性の共有

本講座のテーマにもある「省察」について共通理解をもつことができるよう、事務局から研修の方向性を示すことからスタートしました。日々の業務に忙殺されるあまり、授業の振り返りをすることがままならない現実を共有しながらも、「省察」をすることによる意義や様々な省察方法を確認していきました。

特に今回は、授業で見られた子どもの姿にある要因（子どもの学びの履歴，教師による働きかけなど）を分析することから始める省察に取り組みました。

（※プレゼン資料や活用したワークシートについては、以下のURLからご覧になれます。）

https://drive.google.com/drive/folders/1gMmbea_ILKJuR3N-PV0wwkR5pmECYgRY



② 授業実践の省察・ソニー教育論文の骨子案の検討

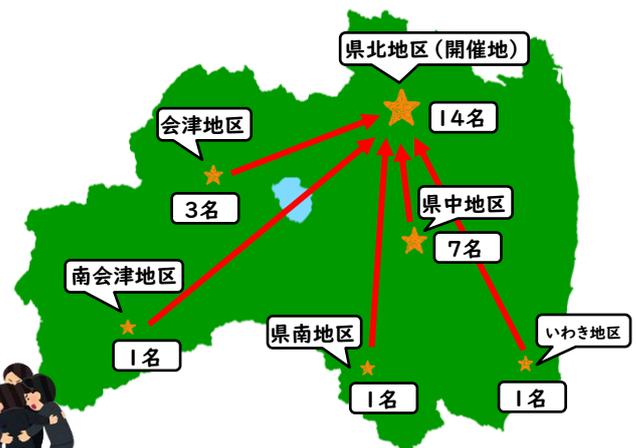
今回は、若手の先生とベテランの先生をペアにして授業の省察を行いました。ノート記録や写真などを見ながら、その時の様子や思いを熱く語る若手の先生。そして、その語りに耳を傾け、にこやかに聴きつつ、若手の先生の授業における一つ一つの行為に意味付けをしていくベテランの先生。「子どもの姿の前では、立場や役割は関係ない」という、福島支部の哲学を感じる時間でした。

自分にとってどんな子どもが「科学が好きな子ども」なのか、そしてそのためにどんなことに取り組んでいたかが明らかになった若手の先生の中には「今年から、ソニー論文出してみたいです!」と意気込む様子も見られました。



【さいごに】

コロナ禍，そして1学期終盤の忙しい中，多くの先生方に参加していただきました。しかも，県内各地から遠路遥々お越しいただき，福島支部の結束の強さを改めて感じました。今年度も「オール福島」で，科学が好きな子どもを育成していけるように頑張ろうと再確認することができた1日でした。



みんなで福島の科学教育を
盛り上げていきましょう!!



〈本講座参加者の内訳〉